

国内金利 : 政策修正に対する警戒感から上昇

株式市場 : 下落する展開

J-REIT : 横ばい

外国為替 : もみ合いの推移

日米主要経済指標、ご留意事項

マネーマーケットあらかると

インボイス制度(適格請求書等保存方式)の開始について

インボイス制度とは、消費税の納税額を正しく計算するための新しい制度で、2023年10月1日より始まります。「インボイス」の正式名称は「適格請求書」と言い、国が定めた記載要件を満たす必要があります。また、インボイスを発行するには、事前に所轄税務署長への申請手続きが必要となります。インボイスを発行出来なければ取引先が仕入税額控除をできなくなることから、取引先より値段引き下げ等を持ちかけられる可能性があります。一方で、登録を行うと課税事業者として消費税の申告が必要となります。そのため、これまで消費税の免税事業者として事業を行っていた小規模事業者等は登録事業者となるか否かの選択をし、登録事業者となる場合には経理等の手間が大幅に増えることが予測されています。

インボイス制度の開始に伴い、請求書のやり取りや管理等の効率化に向けて電子化の動きが強まるとみられ、経理業務全般のデジタル化につながっていくとの期待が高まっています。株式市場においても関連する銘柄の一部で、インボイス制度に伴う需要が業績に反映されている企業も出始めています。今後についてもマーケットの一つのテーマとしてインボイス制度の関連銘柄の動向に注目したいと思います。(山口)

マネーマーケットマンスリーは経済、金利、為替、株価についての情報提供を目的として作成したもので、取引等の勧誘を目的としたものではありません。

また、金融商品取引契約の締結の勧誘に使用するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

※本資料の使用に際し、最終ページを必ずご覧ください。

(2023.9.26 作成)

資金証券部 TEL: 042-526-7740

国内金利

■要約&ポイント

- 日銀・植田総裁のインタビュー記事から金融政策の修正観測が高まり、国内金利は上昇
- 植田総裁は政策修正の時期について、「決め打ちできない」と早期の修正観測をけん制
- 10月の金融政策決定会合前には政策修正に対する警戒感から、国内金利の上昇を予想

■9月の動き(1日～26日)

～上昇～

【変動幅】

0.625%

～

0.750%

9月の10年国債利回りは前月から上昇した。日銀・植田総裁が読売新聞のインタビューにおいて、物価目標の達成に向けた貸金と物価に関するデータと情報が年末までにそろそろ可能性に言及したことで、金融政策の早期の修正が意識されたことなどから、国内長期金利は上昇した。

(26日時点の10年国債利回りは0.740%、先月末比0.095%上昇)

■10月見通し

～政策修正に対する警戒感から上昇～

【予想レンジ】

0.650%

～

0.850%

日銀は9月21・22日に開催された金融政策決定会合において、大規模な金融緩和政策の現状維持を決定した。会合後の記者会見で植田総裁は修正時期について「決め打ちは到底できない」と早期の修正観測をけん制した。しかし、日銀が7月の決定会で3か月に1度の展望レポートの公表とともに金融政策を修正したため、10月30・31日の決定会合前には修正に対する警戒が高まりやすいと思われることから、国内金利は上昇しやすい展開になるだろう。

【国内長期金利チャート(6か月)】



【国内長期金利チャート(5年)】



■今月の注目経済指標

～ 消費者物価指数 (CPI) ～

9月22日に発表された8月の全国消費者物価指数(生鮮食品除く総合)は、前年同月比+3.1%の上昇となった。7月から横ばいとなったものの、12か月連続で上昇率が3%を超え、生鮮食品を除く食料については4か月連続で9.2%の上昇であった。CPIの発表と同日に開催された日銀・金融政策決定会合後の記者会見で植田総裁は物価の動向について「下がり方が少しゆっくり目」と発言した。一方で植田総裁は、日銀が目指す貸金と物価の好循環を続けるために緩和を継続する姿勢を強調した。そのため、足元の為替相場では日米の金融政策の違いから円安が進行しており、引き続き輸入物価などの高止まりが予想される。10月の決定会合後の日銀の物価見通しや政策の修正の有無について注視していきたい。

(折原)

株式市場

■要約&ポイント

- 9月の日経平均株価は小幅下落
- 米中対立への警戒感やFRBの金融政策など、海外の不透明要因が下落要因に
- 10月の日経平均株価は下落する展開を予想
- 世界的な金利上昇や、日米の金融政策に注目

■9月の動き(1日～26日) ～小幅下落～

【変動幅】

31,960円

～

33,634円

9月の日経平均株価は小幅に下落した。米中対立への警戒感やFRBの金融引締りが長期化するとの思惑など、海外要因の不透明感が下落要因となった。一方で割安に評価されている銘柄には資金の流入が見られた。9月に上昇した銀行株や自動車株の影響が大きい東証株価指数(TOPIX)は、同期間に上昇した。
(26日時点での日経平均株価は32,315円、先月末比304円下落)

■10月見通し ～下落する展開～

【予想レンジ】

30,000円

～

34,000円

10月の日経平均株価は下落する展開を予想する。世界的な金利上昇が株価を下押しするだろう。金利の上昇は個人や企業の借り入れ負担を増加させるため、景気にとっては悪影響となる。また、金利の上昇により預金や債券の魅力が増すため、株式は相対的に売られやすい。足元で日米の金利は上昇傾向が強まっていることに加え、日本銀行・FRBともに今後の利上げが意識されている環境下において、株式は調整する場面が見られそうだ。
一方で、堅調な企業業績は株価を支えそうだ。3月決算企業の第1四半期業績は予想を上回るものが多かった。10月後半から11月にかけて集中する半期の決算発表において好調な業績が確認できれば、次第に底堅く推移するだろう。

【日経平均株価チャート(6か月)】



【日経平均株価チャート(5年)】



(菊地)

J-REIT

■要約&ポイント

- 9月の東証 REIT 指数は、下落
- 一時 1,900 ポイント上抜けるも、その後は5月以降続く横ばい圏内の動きに留まる
- 10月の東証 REIT 指数は横ばいの推移を想定
- 引き続き国内長期金利の動きに注目

■9月の動き(1日~26日)

～下落～

【変動幅】

1,857ポイント

～

1,921ポイント

9月の東証 REIT 指数は下落した。月の前半は一時買いが強まり 1,900 ポイントを明確に上抜ける場面も見られた。ただ、国内金利の上昇が重しとなる中、その後は一段と買い進む動きとはならず、次第に売り優勢で推移した。(26日時点での東証 REIT 指数は 1,861ポイント、先月末比30ポイント下落)

■10月見通し

～横ばい～

【予想レンジ】

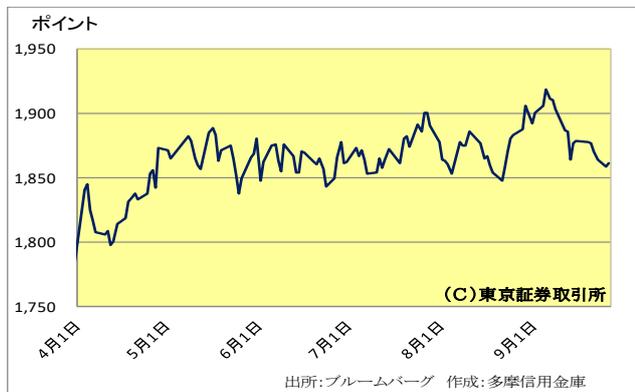
1,750ポイント

～

1,950ポイント

10月の東証 REIT 指数は横ばい圏で推移する相場を想定する。日本の金利の動きを見ると、緩やかながら上昇の動きが続いており、金融マーケットでは日銀による金融緩和政策修正への警戒感が薫っているものと思われる。そのため、REIT には積極的な買いが入りにくいものと思われ、上値は重いであろう。一方、日銀の政策修正への警戒感が意識される中でも、ここ数ヶ月は概ね 1,800 ポイント後半の水準を維持している。日本では相対的に利回りの高い REIT への投資家のニーズは継続しているものと思われ、引き続き 1,800 ポイント近辺で推移するものと考え。ただ、次回日銀金融政策決定会合(10月31日)が近づくとつれて、一段と政策修正への思惑が高まる場面では、REIT が漸調に推移する可能性があるため、注意を払いたい。

【東証REIT指数チャート(6か月)】



【東証REIT指数チャート(5年)】



(森久保)

外国為替

■要約&ポイント

- 9月のドル円相場は円安ドル高の推移
- 米国のインフレ率は徐々に鈍化も高い水準が継続
- FRB(米連邦準備制度理事会)は利上げを見送ったものの、先々の政策金利見通しは上昇
- 引き続き日米の金融政策の動向に注目

■9月の動き(1日～26日) ～円安ドル高～

【変動幅】

144円45銭

～

149円19銭

9月のドル円相場は、円安ドル高の推移となった。月の中旬に行われたFOMC(米連邦公開市場委員会)では利上げが見送られたものの、年内にあと1回の利上げを行うことが示唆されたほか、先々の政策金利の見通しについても上方修正された。これにより、米国金利は大幅に上昇した一方で、日銀は現在の金融緩和政策を維持したため、日米金利差が拡大しドル円相場は円安ドル高に推移した。
(26日時点でのドル円相場は149円07銭、先月末比3円53銭円安ドル高)

■10月見通し ～もみ合いの推移～

【予想レンジ】

145円00銭

～

152円00銭

10月のドル円相場は、もみ合いの推移を予想する。
FRBの先々の金利見通しが修正されたことで、米国金利が高い水準で長期間維持される可能性が高まっている。世界的にみても米国金利は高い水準であることから、ドルに資金が集まりやすい環境が継続し、ドル高の材料となるだろう。
一方で米国の景況感を示す指数は悪化が見られており、米国経済減速への警戒も必要だと考える。また、ドル円相場が150円に近い水準では日本政府・日銀による為替介入が警戒されることもあり、円安ドル高への推移も限定的と思われる。
以上の要因から10月のドル円相場は方向感が出にくく、もみ合いの推移を想定する。

【ドル円チャート(6か月)】



【ドル円チャート(5年)】



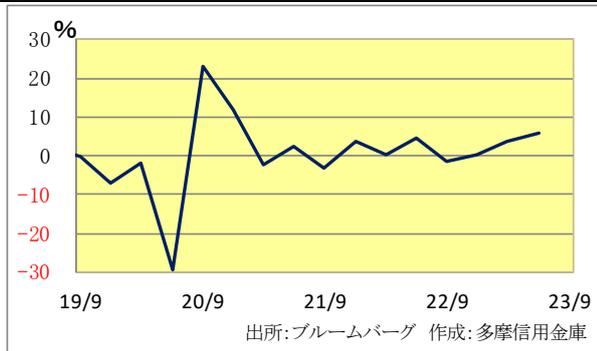
(池上)

日米主要経済指標

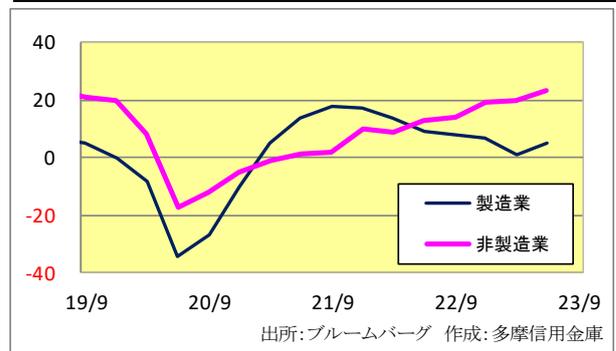
2023年9月26日 現在

(1) 国内経済指標

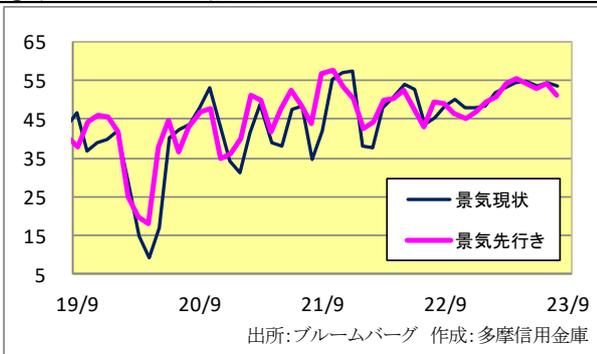
① 実質GDP (前期比・年率)



② 日銀短観・大企業業況判断DI



③ 景気ウォッチャー調査



④ 機械受注統計 (前年比)

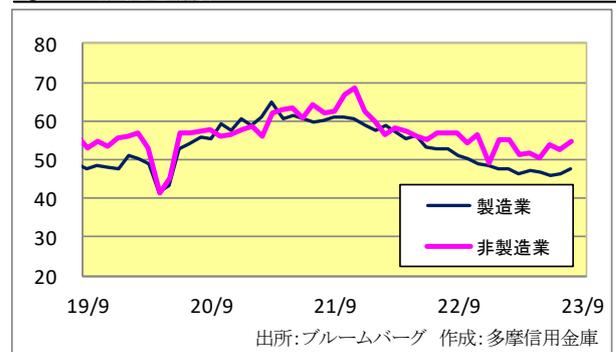


(2) 米国経済指標

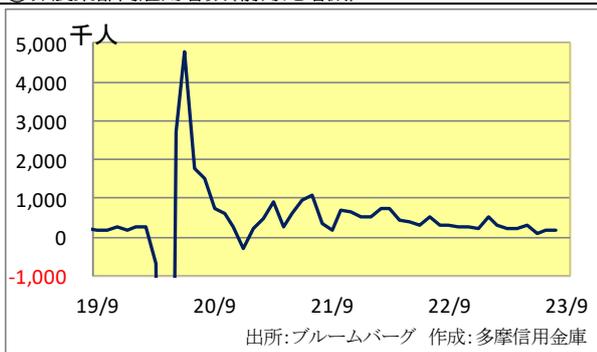
① 実質GDP (前期比・年率)



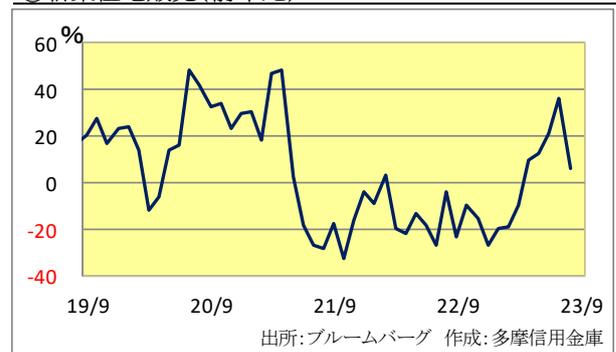
② ISM景況感指数



③ 非農業部門雇用者数(前月比増減)



④ 新築住宅販売(前年比)



※コロナショックにより過去の結果と大幅な乖離が見られるため下記表示を割愛
2020年4月実績値:▲20,787千人

ご留意事項

- ・本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- ・本資料は、信頼できると考えるデータに基づき多摩信用金庫が作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料は記載されたいかなる内容も、将来の市場変動を保証するものではありません。本資料のご利用に関してはご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも多摩信用金庫の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。
- ・本資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的著作権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。